

一日に萩生田文科大臣は、大学入学共通テストへの英語民間試験の導入延期を発表した。「就任以来高校生のことを一番に思いながら慎重に検討を行ってきた」「自信を持って受験生にお薦めできるシステムにはなっていない」「官邸に報告はしたが、最終的な決定は私かした」

これらの説明は、それまでの萩生田氏の姿勢と明らかに矛盾する。「当初のスケジュールどおり実施することを前提に全力で取り組む」。大臣就任以来一貫してそう繰り返していたからだ。十月二十四日にはテレビ番組で経済格差や地域格差について聞かれ「自

本音の口



前川 喜平

分の身の丈に合わせて頑張っていると、明らかに教育の機会均等の理念に反する発言をした。謝罪と発言の撤回はしたが、英語民間試験については「ぜひ予定どおり実施したい」と強調した。

延期発表二日前の十月三十日、首相官邸に近い読売新聞が「英語民間試験延期論が政府内で浮上」と報道。衆院文科委員で真偽を問われた萩生田氏は「承知していない」としつつ「円滑な実施に向けて全力で取り組みたい」と改めて決意表明していた。三十一日の一日のうちに百八十度方針が変わった。支持率低下を恐れた首相官邸の指示によることは疑いない。

抗議行動を続けた高校生諸君、これは君たちの勝利である。(現代教育行政研究会代表)

萩生田氏と英語民間試験

2019.11.3

「文春砲」がした。前週に菅経産相を辞任にだのに続いて今克行前法相だ。一日発売の『週11月7日号』法相のウケイヌ嬢の「。発売前フで公開して永震を与え、発狂、当の法相が新聞・テレビが容とどもに一斉る。週刊誌に思想的な展開だ。記事は、妻の議員の事務所が選において、ウに法律の規定を酬を支払っているものだ。領収書分けて上限二万倍の三万円を支払うのだが、その写真が鮮明で、

法人「南相馬農地再生協議会」を結成し、今は五十鈴で菜の花を栽培している。東さん(左)は「なまごまな事情から、汚染された所で暮らさなければならぬ人